

漢方製剤

オースギ小柴胡湯エキスG

しょうさいこうとう
(小柴胡湯)

承認番号	(61AM)第3876号
薬価収載	1986年10月
販売開始	1986年10月
再評価結果	1995年3月

貯法：室温保存
「取扱い上の注意」の
項参照
使用期限：容器又は外箱に表示

【警告】

1. 本剤の投与により、間質性肺炎が起こり、早期に適切な処置を行わない場合、死亡等の重篤な転帰に至ることがあるので、患者の状態を十分観察し、発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)、胸部X線異常等があらわれた場合には、ただちに本剤の投与を中止すること。
2. 発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。
(「重大な副作用」の項参照)

【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

1. インターフェロン製剤を投与中の患者 (「相互作用」の項参照)
2. 肝硬変、肝癌の患者 [間質性肺炎が起こり、死亡等の重篤な転帰に至ることがある。]
3. 慢性肝炎における肝機能障害で血小板数が10万/mm³以下の患者 [肝硬変が疑われる。]

【組成・性状】

** 1) 本剤は1日量7.5g中、下記生薬より抽出した水製乾燥エキス(小柴胡湯エキス)4.0gを含有する。

日局サイコ 7g	日局タイソウ 3g
日局ハンゲ 5g	日局ニンジン 3g
日局ショウキョウ 1g	日局カンゾウ 2g
日局オウゴン 3g	

添加物として、乳糖、トウモロコシデンプン、ステアリン酸マグネシウムを含有する。

2) 本剤は淡灰茶褐色の顆粒で、特異なおいがあり、味は初め甘く、後わずかに辛い。
識別コード：SG-09

【効能又は効果】

- ・ はきけ、食欲不振、胃炎、胃腸虚弱、疲労感及び風邪の後期の症状
- ・ 慢性肝炎における肝機能障害の改善

【用法及び用量】

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

(1) 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 著しく体力の衰えている患者 [副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2) 慢性肝炎における肝機能障害で血小板数が15万/mm³以下の患者 [肝硬変に移行している可能性がある。]

(2) 重要な基本的注意

- 1) 慢性肝炎における肝機能障害で本剤を投与中は、血小板数の変化に注意し、血小板数の減少が認められた場合には、投与を中止すること。
- 2) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- 3) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- 4) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

(3) 相互作用

1) 併用禁忌 (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
インターフェロン製剤	間質性肺炎があらわれることがある。(「重大な副作用」の項参照)	機序は不明

2) 併用注意 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カンゾウ含有製剤 グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパシーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸及び利尿剤は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。
ループ系利尿剤 フロセミド エタクリン酸 チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド		

(4) 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1) 重大な副作用

間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。

偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシー

があらわれることがある。また、脱力感、筋力低下、筋肉痛、四肢痙攣・麻痺等の横紋筋融解症の症状があらわれることがあるので、CK(CPK)上昇、血中及び尿中のミオグロビン上昇が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

* 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 γ -GTPの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2)その他の副作用

過敏症：発疹、痒疹、蕁麻疹等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

消化器：食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢、便秘等があらわれることがある。

泌尿器：頻尿、排尿痛、血尿、残尿感、膀胱炎等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(5)高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

(6)妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

(7)小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

【薬効薬理】

実験的肝障害抑制作用^{1) 2)}

雄性Wistar系ラットに四塩化炭素を6週間投与し、肝臓の細胞膜の病態とマイクロゾーム分画における脂質過酸化と酵素活性におよぼす本剤の影響を検討した。

マイクロゾーム分画では過酸化脂質の代表的な消去系の一つであるGSH-Px活性の低下は本剤投与により抑制された。

Na⁺/K⁺-ATPaseも同様に低下は抑制された。

ミトコンドリア分画のICDH活性の低下が抑制された。

細胞膜やミトコンドリア障害が軽く、形態学的にも障害の程度は軽度であった。

【取扱い上の注意】

(貯法) 開封後は、吸湿性があるので、フタをよく閉めて保管すること。

【包装】

500g

735g (2.5g × 294包)

210g (2.5g × 84包)

【主要文献】

- 1) 伊藤浩行：四塩化炭素肝障害における細胞膜の変化とそれにおよぼす小柴胡湯の影響、基礎と臨床、**24** (10)5321～5324 (1990)
- 2) 伊藤浩行：小柴胡湯による肝障害改善作用、Medical Kanpo No.5 (1991.6)

【文献請求先】

大杉製薬株式会社 医薬情報部

〒558-0056 大阪市住吉区万代東2-1-33

発売元

大杉製薬株式会社

大阪市阿倍野区天王寺町南1-1-2

製造元

高砂薬業株式会社

大阪市阿倍野区天王寺町南1-1-2